

IBM MICROELECTRONICS - DITAベースの情報戦略による新機軸で一ROIの向上を実現

QUARK XML AUTHORとIBM FILENET CONTENT MANAGERを基盤とするダイナミックパブリッシングソリューションで、コラボレーションの向上と迅速な製品化を実現

ハイテク業界の製造現場には、非常に多くの留意すべき点があります。これらの留意すべき技術情報の非効率な共有と配信は、製品発売の遅延を招き、顧客やパートナーの満足度を低下させ、ハイテクベンダーとパートナーの両者に巨額の損失をもたらす可能性があります。多くの場合、非効率な情報の発信と管理は、専門の技術者を必要とする作業負荷が高い、ミスの生じやすいマニュアル作業の編集工程を含んだ、旧来のITソリューションが原因です。



しかし、DITAをベースにした情報戦略と最新のダイナミックパブリッシング技術により、ハイテクベンダーは、すべてのコンテンツ担当者が自らインテリジェントコンテンツを作成できるようにすることで、情報の作成過程を改善できます。その結果、コラボレーションが促進され、コンテンツの再利用を可能にし、自動化されたマルチチャンネル配信に対応できます。

最先端の半導体開発の先駆者であるIBM Microelectronicsは、同社のビジネスを動かす半導体設計マニュアルを作成および共有するプロセスを、効率を最大限に高めるために、DITAベースの情報戦略を採用しました。Quark XML AuthorとIBM FileNet Content Managerとを連携して使用することにより、IBM Microelectronicsは、DITAを活用して、設計マニュアルのコンテンツをインテリジェントコンポーネントとして作成および管理するプロセス

を構築でき、合理化を推進しています。これにより、マニュアルのコンテンツは、顧客やパートナーに対して瞬時に配信されるようになり、生産性が向上し、今後数年間で数百万ドルのコスト削減を見込むことができます。

The Rockley Group社長であり、著名なXMLの専門家でもあるアン・ロックリーは、IBM Microelectronicsのような製造業の企業が、体系化されたコンテンツをベースとするパブリッシング戦略を導入する必要性に賛同し、次のように述べています。「インテリジェントコンテンツとは、1つの目的、技術、または出力形態に限定されないコンテンツです。多彩な構造を備え、セマンティクスを認識し、そのために検索可能、再利用可能、再構成可能で、様々な目的に使用可能であるコンテンツのことです。また企業とその顧客やパートナーの業務遂行を支援するコンテンツでもあります。」

ビジネスを動かす情報

「IBM Microelectronicsは、IBMのハイエンドサーバーやシステム向けのチップに使用される半導体技術を開発しています。さまざまなビジネスパートナーと協力しながら、こうした技術を開発しているため、開発者集団として市場でより有利に競争することができます。」IBM Microelectronics半導体研究開発センターのシニアエンジニアリングマネージャー、クリス・シュナーベル氏は述べています。

パートナーおよび顧客のコミュニティと協調するために、IBM Microelectronicsは、世界中の開発者と共有する設計マニュアルを発行しています。この設計マニュアルには、半導体技術の説明から、チップの設計と製造のルールに至るまで、多岐に渡る様々な情報が記載されています。

「すべては情報です。我々のグループが、ビジネスパートナーに提供する最も重要なものは、技術ではなく、技術に関する情報なのです。」（シュナーベル氏）

IBM Microelectronicsの設計マニュアルでは、タイムリーな情報の提供と、質を確保することが最も重要であり、シュナーベル氏のチームは、従来のAdobe FrameMakerをツールをベースとする、従来のパブリッシング方式に頼ることは難しいと感じていました。従来のプロセスでは、専門の技術者が必要で、作業負荷が高く、ミスが生じやすいマニュアルプロセスの編集を必要とするからです。

シュナーベル氏はさらに続けて述べています。「我々が生み出す情報は膨大です。印刷すると、設計マニュアルは数インチという厚さになります。こうした膨大な情報を顧客に提供する、よりよい手段を見つける必要がありました。」

画期的な計画

半導体研究開発センターで、シュナーベル氏は設計のルールと方法を担当するプロジェクトマネージャーとして、自身のチームがIBM Microelectronics設計マニュアルを発行する新しい画期的な方法を開発できるという確信がありました。シニアITアーキテクトのアレックス・マーティン氏と緊密に協力しながら、このチームは、現行の発行プロセスを分析し、新たなソリューションを導入して、情報をオ

課題

- 情報が更新されるたびに、即座に情報にアクセス可能にする必要がある
- ユーザーがタグを意識せずXML/DITAコンテンツを作成できる必要がある
- 情報を検索可能なデータとして保存する必要がある
- ユーザー権限に基づいてデータへのアクセスをコントロールする必要がある

QUARKのソリューション

- Quark XML Author for Microsoft Word
- IBM FileNet Content Manager

成果

- 情報をシステムユーザー、パートナー、顧客間で容易に共有
- コンテンツへのアクセスをルールに基づき制御
- 標準的なワードプロセッサをDITA編集環境として使用できるようにすることで、ユーザーへの迅速な浸透を実現
- DITAは、コンテンツをデータとして扱うという要件に対応する一方、パブリッシング向けには柔軟性を提供
- 生産性向上により大幅なコスト削減

オンラインと印刷物の両方で作成し、管理し、自動配信するという作業を成し遂げました。

「半導体ビジネスでは、スピードと精度が極めて重要です。情報を顧客により早く届けられれば、顧客は自社ビジネスにとって重要な製品をより早く提供できます。数千の利用者を支える数百人のドキュメント作成者を、統制された迅速な方法で適応させることができるソリューションが必要でした。」（マーティン氏）

スピードと精度の向上に加え、枚岩的な発行プロセスと決別し、IBM Microelectronicsは、再利用と標準化が可能なコンポーネント方式のアプローチへ移行したいと望んでいました。このソリューションでは、コンテンツが以下のようである必要がありました。

- 数百人の技術者ではない担当により作成される
- 容易に作成したコンテンツにアクセスできる
- 保存されており、検索できる
- ユーザーの当該データへのアクセス権限に基づき、条件に従ってコントロール、およびフィルタリングされる
- 顧客が希望するチャネル経由で配信される

「新しいパブリッシングソリューションを探す際の主要な要件の1つは、ユーザーがすでに慣れた編集環境を利用できるということでした。もう1つの要件は、ソリューションが当社の既存テクノロジーと容易に連携でき、一元化されたコンテンツ管理システムによって管理できることでした。また、コンテンツをWebページ、PDF文書、または機械による読み取り可能なフォーマットとして顧客に提供できるソリューションが必要でした。」とシュナーベル氏は述べています。

インテリジェントコンテンツの作成

シュナーベル氏とそのチームは、上記の要件を実現するには、IBM Microelectronics設計マニュアルの作成者自身が、構造化されたインテリジェントコンテンツをXML形式で作成する必要がある、と判断しました。

XMLは、Web、モバイル機器、各種印刷形式などのさまざまな配信チャネルを通じて共有できる、共通の情報フォーマットを作成するための柔軟性をもつ標準規格です。一貫性を持ち、安全で、再利用可能な形式で情報を共有する必要がある場合に使用されます。

DITA (Darwin Information Typing Architecture) は、技術情報を編集し、共有するためのXML準拠の標準であり、コンテンツに対する一貫性のある作成、共有、再利用を推進する、共通の構造を定義します。

DITAでは、作成者はコンテンツをXMLで作成しなければなりません。しかし、非技術担当者向けのXMLコーディングツールであっても、使用が難解である場合があります。



ダイナミックパブリッシングソリューションでは、印刷およびWebに自動配信できるよう、XMLとDITA標準に従って構成され、マッピングされるコンテンツを作成できます。

大半の企業と同様に、IBM Microelectronicsも、DITAの直接のコーディングに着手したり、複雑なオーサリングツールを習得したりする時間やリソースはありませんでした。そこで、チームは、DITAコーディングをまったく意識させないソリューションを探すことに注力しました。

「ドキュメント作成者の主な役割はコンテンツを作成することであり、DITAの専門家になることではありません。DITAコンテンツを作成するための主なツールをほぼすべて検討しましたが、それらは、作成者が時間をかけて学習しなければならないようなものが多数でした。Quark XML Authorを使用すれば標準的なワードプロセッサライクに、容易にDITAの記述が可能であるのに、わざわざ時間を割いて新たなツールを学習すること必要性を感じませんでした。」マーティンは述べています。

「このソリューションを使用した結果、多大なコストの節約が期待されます。」

IBM MICROELECTRONICS、半導体研究開発センター、シニアエンジニアリングマネージャー、クリス・シュナーベル

Quark XML Authorは、誰もがXML文書を作成することを可能にする、Microsoft Wordのアドオンです。タグは表示されず、ボックスに制約されることもなく、XMLに付随する複雑な技術を意識せずに済みます。さらに、Quark XML Authorでは、ドキュメント作成者が作成するコンテンツは常にXML標準に照らして検証されるため、後になってコンテンツを作成し直す必要もありません。

Quark XML AuthorおよびIBM FileNet Content Manager

FileNet P8プラットフォーム向けの中核的なコンテンツ管理ソリューションであるIBM FileNet Content Managerは、DITAをサポートする、コンテンツ、セキュリティ、ストレージ管理のためのエンジンです。

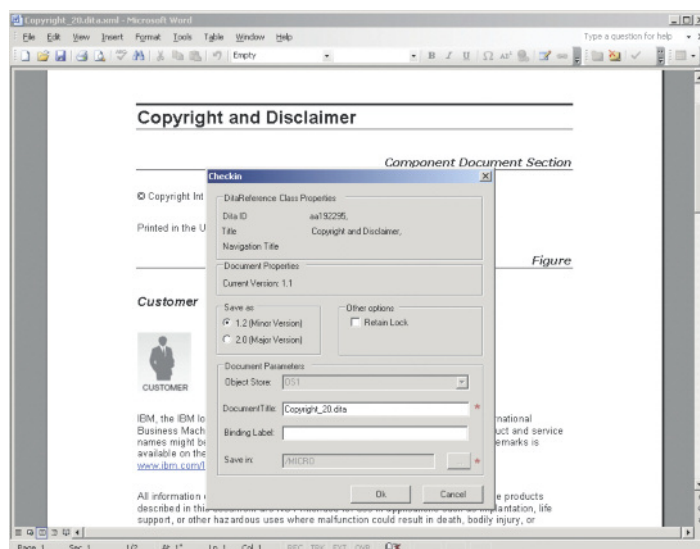
「Quark XML AuthorをIBM FileNet Content Managerに連携させたのは、Quark XML Authorが、解決しなければならない多くの問題に対応していたからです。情報の容易な編集と発行、さまざまな形式での配信、そして管理と再利用に対応できる必要があり、かつ各ユーザーやパートナーのアクセス権限に基づいて情報を提供する必要がありました。」（シュナーベル氏）

IBM Microelectronicsのマニュアル作成者は、Quark XML Authorで文書を作成し、さらにIBM FileNet Content Managerを使用して文書のチェックイン（ファイルの登録）とチェックアウト（ファイルの取得）を行います。作成者が文書を作成または編集すると、組織内の誰もが当該コンテンツをすぐに見ることができるため、チームは迅速かつ効率的に新たな情報に対応できます。

「IBM FileNet Content ManagerとQuark XML Authorにより、これまで不可能であった多くのことが可能になりました。複数の作成者がコンテンツを同時に編集でき、それらの情報を1カ所に集めて顧客に公開することができます。」とシュナーベル氏は述べています。

生産性向上とコスト削減

IBM Microelectronicsでは、テクニカルライターのためのツールをFrameMakerからQuark XML Authorへと移行させました。また、設計エンジニア、半導体評価エンジニア、モデリングエンジニアを含む、さらに大規模なグループが移行中です。これらのグループは、テクニカルライティングを担当してはいませんが、快適で親しみやすい体系化された方法を通じて、設計マニュアルに貴重な情報を付加できるよ



従来のXML編集ツールの負担や複雑性を伴わずに、ビジネスユーザーが体系的な手法でコンテンツを作成できます。

うになります。Quark XML AuthorをIBM FileNet Content Managerと連携させる以前は、一握りのテクニカルライターがIBM Microelectronicsで設計マニュアルの作成を担当していました。これらのテクニカルライターはコンテンツを作成し、手作業でフィードバックを募り、編集を加えていました。現在では、マニュアルコンテンツは、200人の技術者コミュニティによって作成され、当該技術を担当する数千人の開発者やエンジニアに公開されています。コンテンツを作成し、編集する工程が大幅に効率化され、その結果、コンテンツの質が向上しました。

IBM Microelectronicsでは、設計マニュアル作成における専門者間のコラボレーションの向上、発行工程の改善、配信チャネル拡大による主要ビジネス関係者へのサービスの向上を通じて、次のような成果がありました。

「QUARK XML AUTHORのおかげで、私を含め、組織内のすべてのドキュメント作成者が、XMLについて何も知らなくても、XMLドキュメントを作成することができます。」

IBM MICROELECTRONICS、ITアーキテクト、アレックス・マーティン

- コンテンツ作成から発行に至る所要時間を40%短縮（しかも、この時間短縮は 継続的に改善すると予想）
- 今後数年間で数百万ドルをコスト削減する計画であり、これは5倍の投資利益率に相当

「このソリューションを使用した結果、従業員の生産性向上とコンテンツ作成工程の簡易化という両面で、多大なコストの節約が期待されます。」シュナーベルは語っています。

「QUARK XML AUTHORをIBM FILENET CONTENT MANAGERに連携させたのは、QUARK XML AUTHORが、解決しなければならない多くの問題に対処していたからです。」

クリス・シュナーベル

QUARK SOFTWARE INC. について

Quarkのソフトウェアによって、あらゆる規模の組織や企業は、魅力的で適切な情報にいつでもどこでも自由な方法でアクセスしたいという顧客の要望に応えることができます。Quarkのソリューションは、XMLの力と、柔軟なレイアウトやデザインを融合させ、印刷物、ウェブ、最新のデジタルデバイスでのインタラクティブエクスペリエンスに向けた顧客コミュニケーションの提供を自動化します。世界中の金融サービス企業、製造業、政府機関が、Quarkのソリューションを使用して、顧客コミュニケーションを新たなレベルに向上させるとともに、商品化までの期間短縮とコスト削減を実現しています。

Quarkエンタープライズソリューションの詳細はこちらをご覧ください www.quark.com/enterprise
また、ご質問は www.quark.com/contact よりお問い合わせください

Denver | London | Hamburg | Mohali | Dublin

©2015 Quark Inc. All rights reserved. 無許可での使用または複製は、準拠法違反となります。Quark、Quarkロゴ、およびQuarkXPressは、Quark Software Inc. とQuark関連会社の米国およびその他各国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に属します。15606CS_1_JP